[非日常な彼女] 096.鳴見なる

Naru Narumi Interview……p277

表紙ウラを見よ。

[非日常な彼女] 096. 鳴見なる

Interview

編集部からの依頼は
「女性を好きなように描いてください」、その一言だけ。
さまざまなジャンルの注目クリエーターたちが、
ふだんは描かない女性キャラを自由自在に描く。
今回の絵師は……?

text / Shin Suketake
design / Junya Arai + BayBridgeStudio

【解説】イメチェンをしようと思い立った16歳の悲劇。これまでは地元の美容院で切っていたが、寮生活になったために、自ら散髪に挑戦した"彼女"。しかし、前髪を切りすぎてしまい…収拾がつかなくなり「どうしよう?」と"私"に助けを求めた瞬間の表情がこちら。そうか、髪を切っている"彼女"の物語かと思ったら、さにあらず。もっと深い。「"私"は、『こいつは失敗するなあ、いつ助けを求めるのかな』と失敗していく様を眺めているんです。それで、一番助け甲斐がある瞬間までじっとしていて、泣きついてきたら、そこから先は完全に彼女を助け、守り、かばっていく。彼女を依存させたいのかもしれない。しかし、深刻な依存症なのはそんなことを考えている"私"自身」(鳴見氏)…これは"彼女"に依存する"私"の物語だったのだ!

Profile

Naru Narumi

東京都生まれ。幼少期は絵がうまく描けなかったため、絵を描いた思い出はあまりない。そのため、最初に絵を描いた記憶は小学生のときにパソコンで。マウスで○や□などの図形をうまく繋げてポケモンを描いたら親に褒められた。格闘技を夢中で習うアニメ好きのコだったため、家に唯一あった漫画『ナニワ金融道』以外をほぼ読まずに育つ。あるとき、偶然弟が読んでいた少年ジャンプを見たときに「漫画には色々な形があるんだ」と気づき、中学生半ばで漫画を描き始める。絵を描き始めたのが遅いという思いより、"人百倍"の努力を重ねる。元々物語に触れるのは好きで、『三国志』は通しで何十回も読んでいた。好きなエピソードは「関羽が将棋を指しながら、"ながら"で腕の切開手術をする場面」。月刊ガンガンウイング(スクエア・エニックス)への初投稿をきっかけに、2005年に『こいかみ』でデビュー。その後、『JA~女子によるアグリカルチャー~』などを発表。現在は、『ラーメン大好き小泉さん』(まんがライフSTORIA/竹書房)、『渡くんの××が崩壊寸前』(月刊ヤングマガジン/講談社)ほか一編を連載中。趣味と実益を兼ねたラーメンは「一日一杯、最高で二日で13杯。今のマイブームは一駅に一軒はある長く続いた老舗店のシンプルなラーメン」。「自分は強がり」と分析し、「いつか最強のオンナを描いてみたい」とのこと。

Point

鳴見なるの女性キャラ製造POINT

髪はエロス。

恋愛しているか否かを最初に決める。

正面顔を積極的に描く。

Interview

髪はオンナの何かを隠すもの。そこにはエロスが宿ります。

尼さんのエロス、ってスゴイですよね。髪の毛で隠せる部分が隠されていないという…私のツボなんです。「髪はオンナの命」と言われる理由は、「髪で隠して生きている」ということにあると思っています。だから、尼さんは命を剥奪されている!? なんて無防備!!…と。髪はあってもエロス、なくてもエロス。スゴイものなんです。

じゃあ、髪はなにを隠しているんだ? と問われると…(笑)、いろいろ隠していますね。特に髪の長さは本当に重要で、短いほど自信のある子だと思う。隠さなくてもいい、バレてもいいという開き直りもあるのかも。髪があると女のコは防御力があがるんですよ。それと、今現在の髪型というのは、自分自身の褒められた経験や思い出が継ぎ足されて出来ていますから、目に見えない歴史があるんです。軽い物じゃない。

そんなことを踏まえながら漫画のキャラクターの髪型を真剣に決めています。絵に描いてみるとわかるんですが、ある程度長く伸ばすと主役格なキャラでも、髪を切り間違うと、途端にサブキャラ感が出てきてしまうんですよね。髪はキャラにとっても命。私は長めが好きかな。話の途中でアレンジができますしね。あっ、髪型を変えても同じキャラだと読者にわかるのはスゴいことで、ちゃんと伝わっていることの証拠です。同時に、髪型アレンジができる=長く連載が続いているということ。

ひとつのキャラでいろんな髪型を描けるような作品を作りたいですね。(談)